

图41 B地区5号住居址出土土器

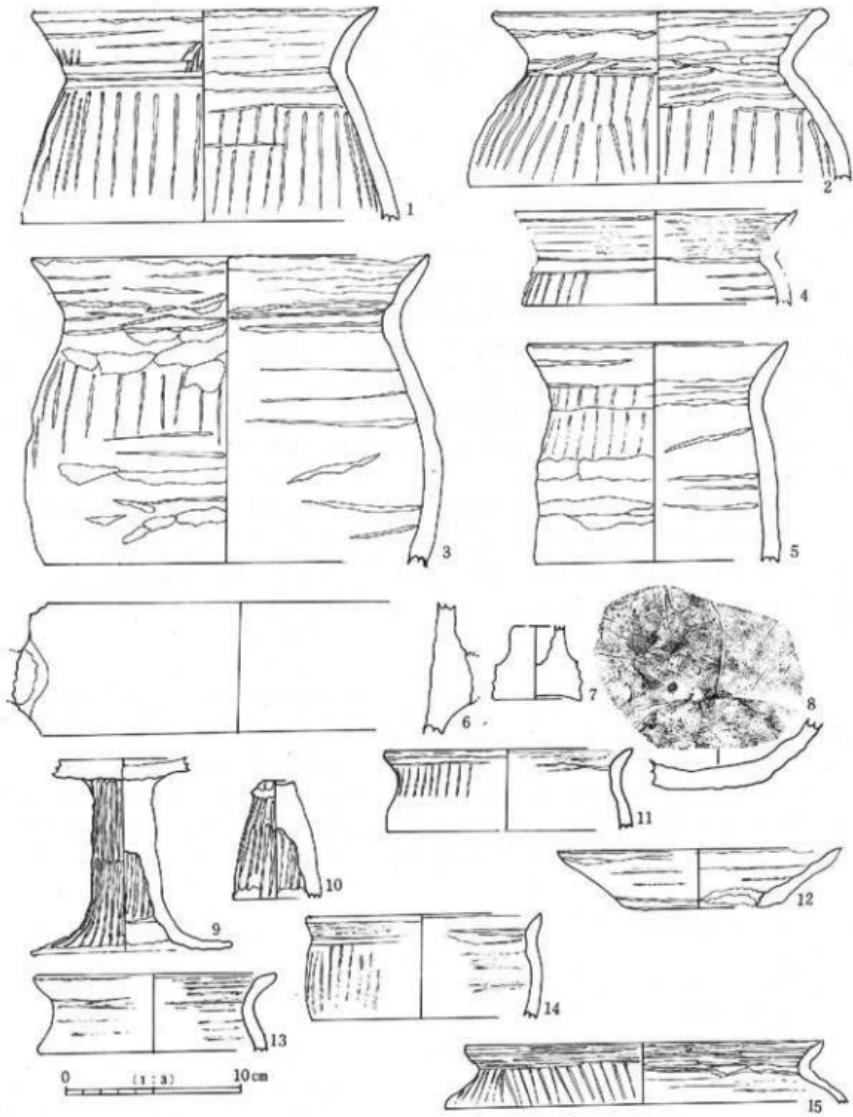


图42 B地区周满状遗物出土土器

(4) 平安時代の遺構・遺物

平安時代の遺物の内灰釉陶器片は、A地区の北側、溝1に続く所の上層とB地区の北側グリット15辺りの上層で出土しただけである。国分系の土器片はB地区の4号住居址とその北側一帯から発見されている。平安時代の遺構はA地区では検出されていない。B地区では4号住居址・その北側の配石遺構である。

① 4号住居址（図19・21・40・43）

図40でみると5号住居址の北側4mほどの所から、径30cmから40cmほどの平石が12個積円状に並ぶ。西側の壁際にハの字形に並ぶ石がある。この石は表土下やく80cm。平石は1mほどの位置にある。ハの字に並ぶ石の間とその前は焼土が厚く堆積し、東側の壁際にかけて各所に焼土があり、所々に堅い床面が確認されたが、その範囲を確認することは困難であった。石を残して掘り下げてみると、下層にも焼土の層が幾層にも重なり、国分式の大形な土器片が出土した。平石の下辺りが遺物包含が多く、国分系の変形大形破片のほかに須恵器坏形等の出土が多い。とくに東側には炭材を含む炭の層が確認されたが、阿島式土器も混ざって出土するので、平石を残して掘り下げているので、床面・窓穴の範囲等が確認されていない。

図43はこの周辺の出土遺物で、1～4は条線とタタキ目を持つ典型的な国分式の変形土器の口縁部、5～7は底部、9～12は変形胴部の拓本、13～15は須恵器の坏で、高台付き・糸切り平底である。とくに13・15はほぼ完形で、東側の壁際に出土している。16～18は蓋坏、鉢形の須恵器の破片である。

② 配石遺構（図40・44）

4号住居址の北側、砂礫層の多い窪地地形の北側に平石の並ぶ所がある。図40の1は6個の平石が並ぶところ、その周りに3・4・5の石が並ぶ。規則性はみられないが石の高さはほぼ一定である。図44の土器は、変形土器・須恵器の蓋坏・坏形土器の完形のほか、変形土器・須恵器の破片である。この配石遺構の南側は砂礫の多い窪地に接し、北側では平安時代の包含層が厚い。面上に掘り下げると所々にピット状の落ち込みがあるが、配列は認められない。阿島式土器片も散見され、北側に阿島式土器片が集中する窓穴11が検出されたので、配石遺構の下層調査は不十分である。

(5) 試掘調査の遺物

試掘調査はB地区の西側と、西側にある第二工区で行われている。共に重機で表土を刎ねてその面で10cmほど調査している。

① 第一工区B地区の遺物

中世まで入れれば60点ほどの土器片が採集された。中世内耳鍋の破片・陶器片、平安時代の須恵器

片が多く、古墳時代の土師器片も数点出土している。

② 第二工区の遺物

第二工区から出土する土器片は多く、小片を含めると100点ほど採集された。中世山茶碗等、灰釉陶器片、糸切底の平安時代土師器片、高台付きの坏等の須恵器片が出土している。

(6) 旧五反田井

B地区の南端を東西に流れる現在の五反田井がある。その北側を並行するように深い溝が検出されている。現水路に接していることから幅や深さは確かめてない。北側の溝縁から中腹にかけて、鉄分の沈殿層が張り付くように続いている、遺物出土は少なく、上層から山茶碗片、下層から近世陶器片が出土している。

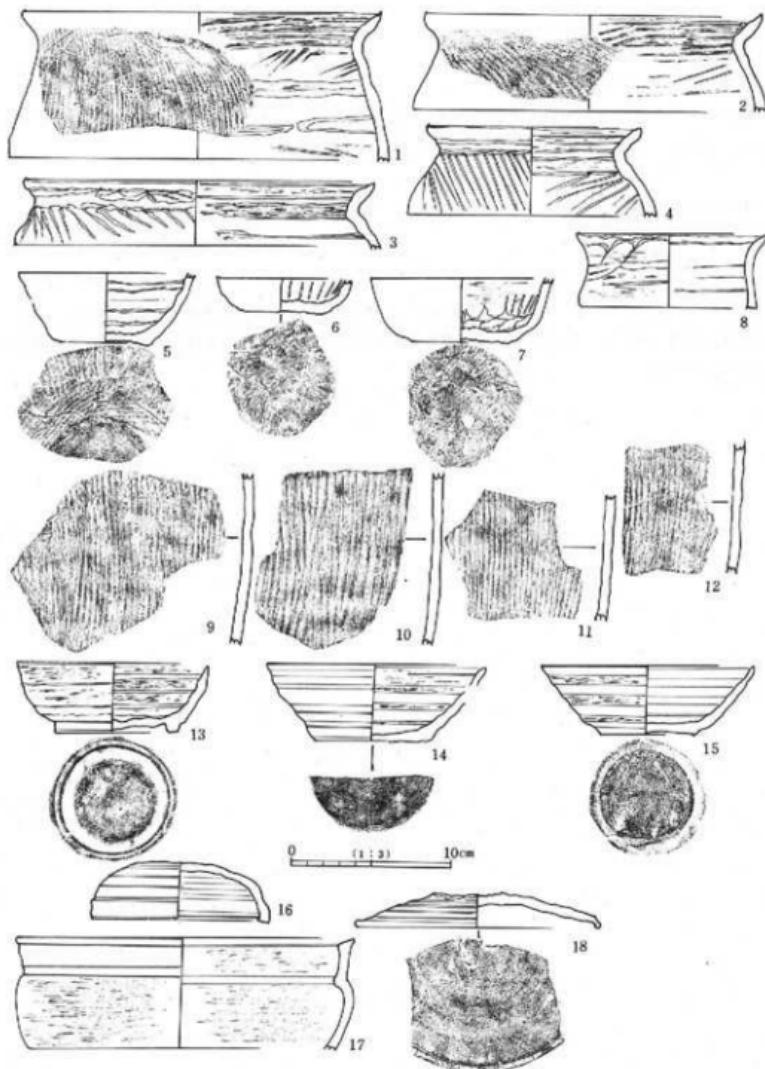


图43 B地区4号住居址出土土器

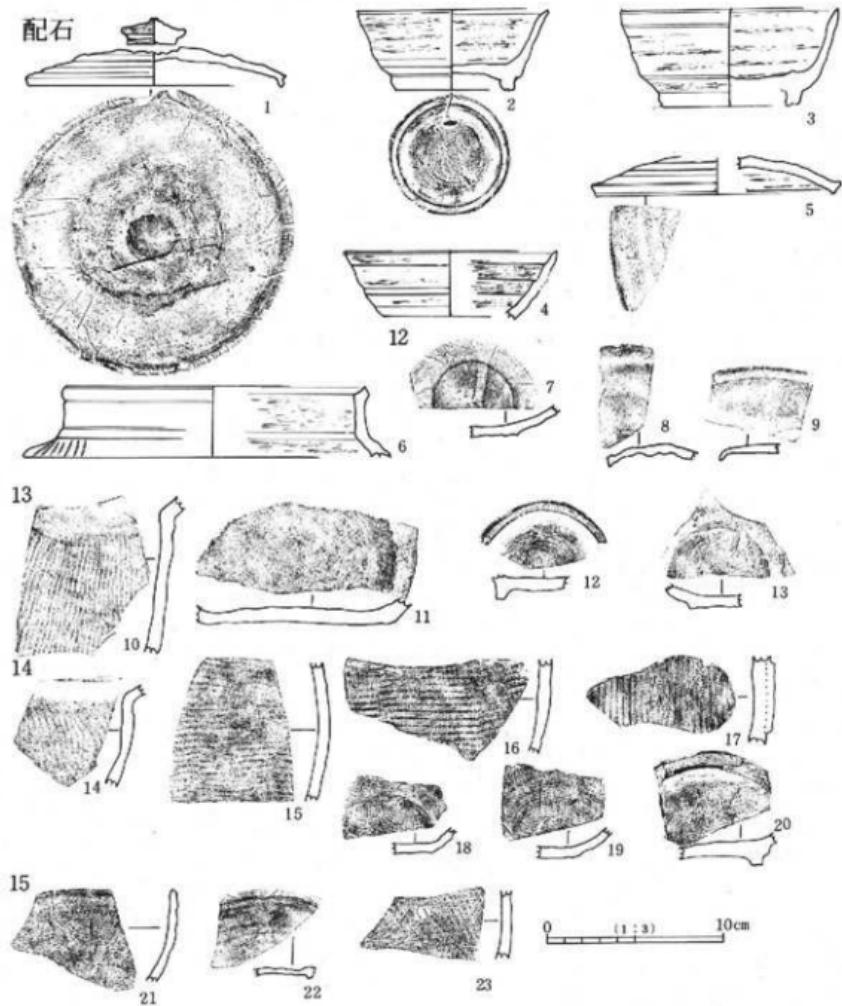


图44 B地区12~15地点出土土器

写 真 図 版

写1 A地区溝状遺構1・2と土器集中地



I. No.16

写2 A地区溝状遺構3・4と集石遺構



1. No.25

写3

A地区溝状造構1土器集中地
(No.16・
No.25)



写4 A地区土器集中地
No.25 壶形土器出土状况



写5 A地区土器集中地

No. 16 出土土器

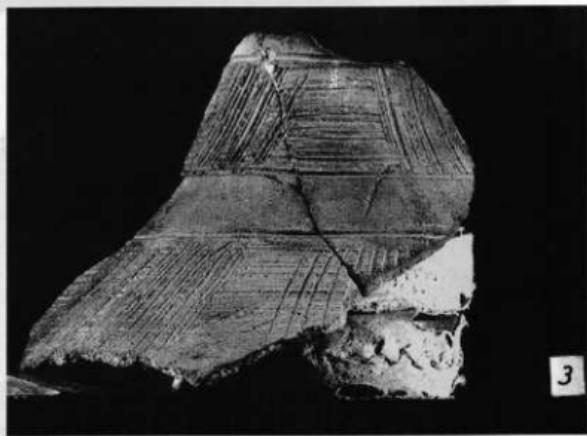


写
6
No.
25 出土土器



新石器時代後期の土器
（出土地點：山口県下関市）

3



4

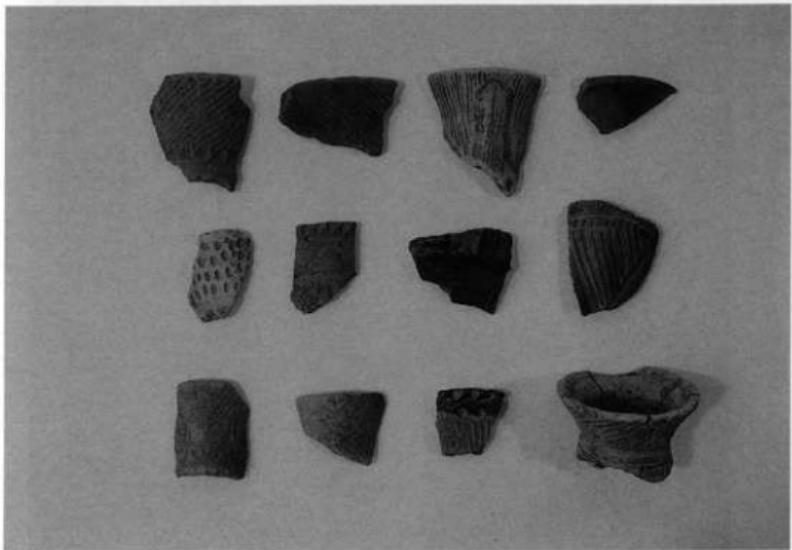


写7

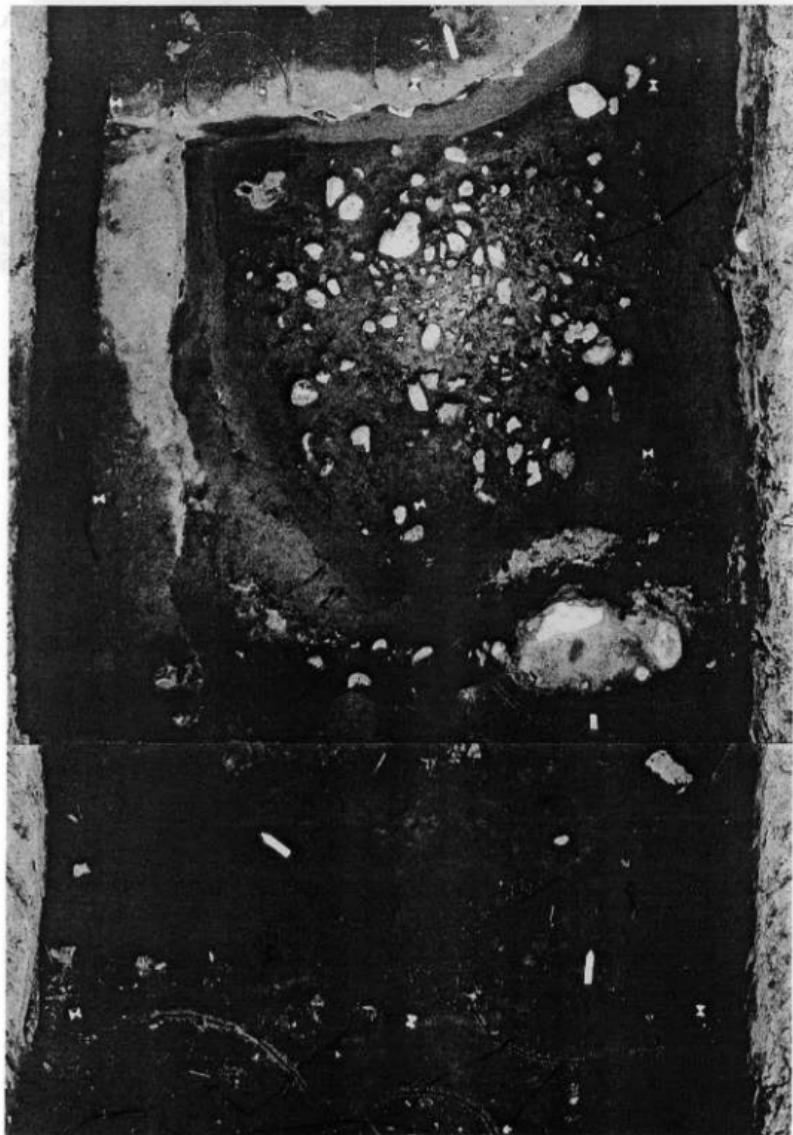
B地区竪穴9出土 壺形土器口縁部



写8 A・B地区朱彩土器口縁部



写9 A地区下層の礫層



写10 B地区4号住居址の配石と竪穴9

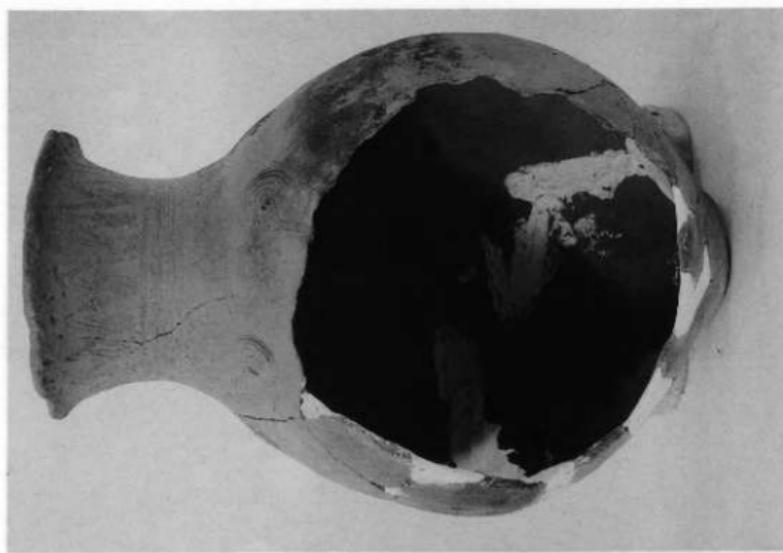
石室 立石 道路



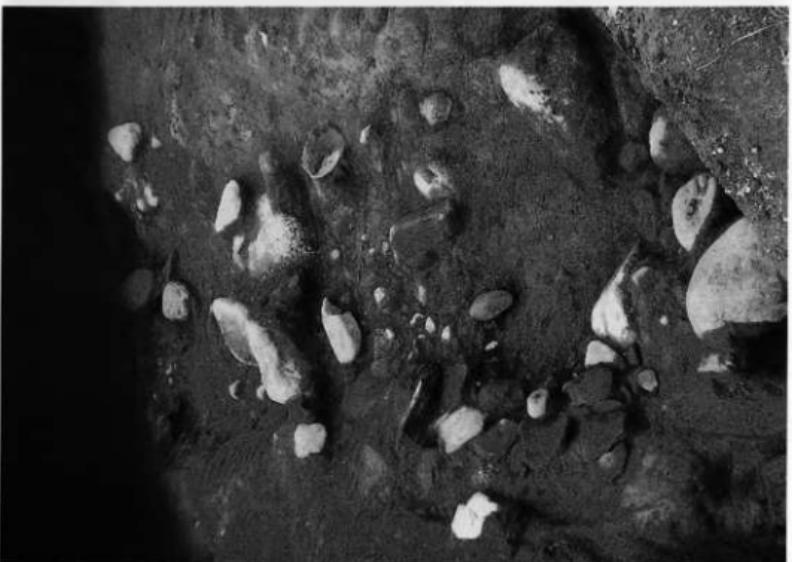
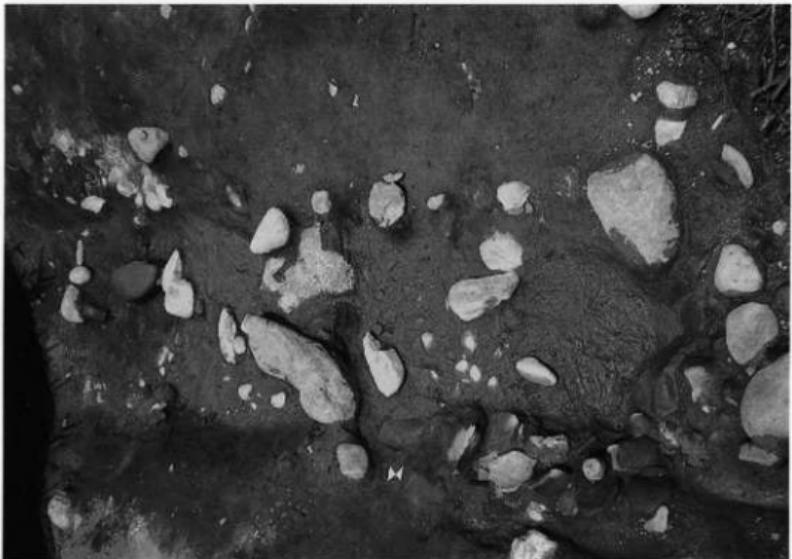
写11 B地区堅穴11（検出中）



写12 A地区合わせ土器棺（壺形土器と甕形土器）



写13 A地区溝状遺構3



写 14 B 地区 5 号住居址

新石器时代遗址



写15 B地区配石遺構



写 16 調査団の面々

あらま VI



IV まとめ

検出された遺構を時代毎・地域毎にみると、阿島式土器を伴う遺構はA・B地区に広がっている。弥生時代後期の遺構は、中間地帯の一部に留まり、古墳時代の遺構はA地区とB地区的南側まで、平安時代の遺構はB地区の中央付近から北で検出されている。このことはどちらの複合遺跡でもあることで、同じ台地の中で時代によって所を代えて集落が形成されることがある。その一例になるかどうか今後の課題である。

もう一つの結果は、A・B地区で遺構の種類・性格が大きく違うことである。A地区では、古墳時代の6号住居址を除いて、溝状遺構1～4と土器棺の遺構は祭祀・墓地的な遺構とすれば、小高い地形を利用した集落の共同の場所であり、各時代にこの場所が同様に使われたことになる。そうなれば、今回の調査結果は課題解決の大きな手がかりになる成果の一つと思われる。

阿島式土器を伴う遺構群には大きな特色がある。土器片の出土数をみると、A・B両地区合わせて1700点以上出土している。それを場所別・遺構別にみるとA地区では溝状遺構1・2、B地区では竪穴状遺構9・11に集中している。A地区的溝状遺構2には溝縁・溝底に土器集中の集団がある。その中で特筆される所は、No.16とNo.25である。No.16は最も高い所から、石器や平石と土器が固まり、幾重にも重なるように溝底近くまで土器が出土している。No.25は平石と土器が出土する範囲は広く、三河系の壺形土器半個体が複数出土している。これだけでは確証が得られないが、集中する場所が溝縁であること、平石や石器が重なること等から、特異な土器集中地で、祭祀場か墓地群と考えたいわけである。しかも近くの上層に弥生時代後期の壺形土器と変形土器を合わせた壺棺が出土したり、平石を敷き詰め焼土や炭の堆積する古墳時代の溝状遺構が重複している。阿島式土器の時代から、弥生時代後期・古墳時代にかけて祀りや墓域に使われた場所とも云える。

B地区的竪穴状遺構9・11も特異な遺構である。竪穴の構造については十分検証されていないが、双方とも上層に炭の面がある。とくに竪穴11の上層には炭材が横たわったり、焼土の固まりがある。また、上層から土坑状の落ち込みがあり、土器片も500点以上出土している。土器片の收拾だけに終わっていること、東側半分は未検出であるために正体不明な遺構であるが、集落の中にある特異な遺構の一つと思われる。

調査地I・IIの個体土器の出土地、昭和36年の試掘調査による住居址の確認、今回の調査による溝状遺構とそれに伴う土器集中地、正体不明な竪穴状遺構等々多岐に亘る遺構が広い範囲に存在する。しかも、包含層は一定でなく起伏の多い地形が予想される。ごく限られた範囲の中で、考察する材料に事欠く状況である。限られた調査範囲で知ることは、生活にかかる遺構は、南北の表土下1～60cmほどの所にある。その中間にある小高い所に祀りの場か墓域が有ると思われるだけである。阿島式土器の時代でも時期差があるのか、集落の広がりは、集落の構成はどうなっているのか、水田耕作地は何処にあるのか課題は多々ある。包含層の深いところであるから一朝一夕にはいかないことであるが、道路敷の範囲に留まることなく、広域的な発掘調査が成されることを願っている。

それを阿島式土器を伴う遺構群に絞ってみると、A地区的溝状遺構1・2と溝縁の土器集中地は極めて重要な遺構群と考えられる。小高い丘に位置して、溝縁を利用した土器集中の集団があること、三河系の櫛描文の個体土器が発見されたこと等、課題解決の大きな手がかりとなるわけで大きな成果

であったと自負している。

B地区で検出された竪穴状遺構もまた大きな成果の一つでもある。そのわけは、これも特異な遺構と思われる。今まで住居址の発見は南側で1軒だけであるが、北・東側の調査地I・IIは包含層の深いところで、個体土器が発見されていて、居住集落の広がりが予想される。中央部に小高い地形があって祭祀場か集団墓地があり、その北側の墓地に炭層の堆積する竪穴遺構があるとするならば、集落の規模は広がるわけで、阿島式土器を伴う集落構成上別の課題が投げかけられている。

平成23年にも、今回の調査地の西側で発掘調査が予定されている。地形的にみても、本年度の調査状況からみても包含層は深いと思われる。試掘状況からみると、平安時代・古墳時代の遺物出土が予想される。弥生時代後期・中期の状況は推しはかり兼ねるが、昭和36年の調査地に近いことから阿島式土器の出土が多く、住居址の発見もあろうかと思われる。この時期の住居址またはそれに類する特殊な遺構が検出された場合には、拡幅調査実施の英断を待ち望んでいる。

V 協力者の声

1. 五反田遺跡の発掘に携わって

歴史民俗資料館 市瀬辰春

以前には、今村先生の御指導で五年程各地の発掘作業に携わらせて頂き、夢を振り当てる楽しさを経験させて頂きました。今回は計らずも地元五反田遺跡の発掘ということで、県の重要遺跡にも指定されており、過去の出土遺物とも重なり合って、埋蔵されているだろう阿島式土器に対する期待に胸が躍る思いでした。先生は過去の経験から、2メートル位は掘り下げないと、それにはお目にかかるないと話して、期待と共に大変な作業になることが予想されました。調査団員は、猛暑や時には雨に悩まされながらも、それぞれの個性を生かしたチームワークで、作業は順調に推移しました。南側のA地区は、予想に反し40センチ程の深さでの阿島式土器の出土や、弥生時代の土器棺や溝、沢山の土器片が採集されました。又古墳時代の土器焼場かと思われる溝状の遺構にも驚かされました。水路を隔てた北側B地区は、上層平安時代から古墳時代、その下に弥生時代とその深さも1メートル70~80センチに達しました。そして阿島式土器片の数も、先生や皆の予想をはるかに上まわり、終わってみれば、短期間でしたが、あの猛暑の中をお互いを労り合いながら、そして勉強をしながら、この地元にこれだけ豊富な、遺跡、遺構があることを知る良い機会になったことを嬉しく思います。この次は、資料館へそんな思い出の土器・石器に逢いに来て下さい。

2. 五反田遺跡発掘調査に従事して

大原成章

阿島式土器の本家本元ともいべき阿島北五反田地籍での発掘作業に従事させて頂き貴重な体験を得る事が出来ました。作業は5月から7月まで、梅雨を挟んで酷暑の夏の初めまででしたが楽しい仲間と今村団長のご指導に歴史のロマンを感じながら過ごした3ヶ月でした。

私は、総務担当ということで現場の安全管理や労務管理等が任務であった訳ですが何しろ初めてのことと大変不安でしたが、共に作業する仲間に助けられ大雨による冠水や崩土等もありましたが事故なく終えられたことは本当に有難く皆さんに感謝です。

さて、発掘の方はと言いますと阿島式の壺の姿がイメージとしてありましたので、掘り進めればきっと出てくる。そんな期待をもってやっておりました。そして、合わせ棺や阿島式の壺型土器、住居址等々新たな発見に興奮しました。私自身では「環」を見つけましたが、初めて見るものでこの時全く移植ごとに触れること無く、青く小さな輪が出てきたことが不思議に思われます。今回出土した多くの資料が地域やその他で活用されることを祈念いたします。

3. 阿島五反田遺跡発掘調査に参加して

土井高司

職場を3月末退職して間もないころ、調査場所が自宅敷地から数メートル（阿島五反田遺跡）発掘調査の作業員募集の話を聞き、近くの知り合いと一緒に早速応募しました。なかなか採用通知が来ず、こんなご時世、さて採用していただけるかどうか心配しておりましたところ、お陰様で教育委員会より採用通知を頂き5月10日より作業につくことができました。初体験の私は今村団長のお話を聞き指示に従いながら恐る恐る勤廉で土の表面を削る作業から取り掛かりました。なれない作業で今村団長から注意を受けることしばしば、やがて徐々に要領を得て作業を進めるようになりました。

全行程を通して特に印象に残ったことは、主に自分が担当させていただいたA地区溝2の溝縁土坑№16、及び16西、№25を掘り下げたことでした。大型の石器、特に土器のかけらは、ほんの数センチ削ぐごとに顔を出すので無我夢中になって掘り進めていました。ミーティングの時今村団長から、この地点での出土点数が群を抜いていると聞き、なぜか誇らしく嬉しい気持ちになりました。

また№25を何気なく掘り下げていたとき突然土器の個体らしきものが顔を出したときでした。すぐ団長に来ていただき見ていただいたところ、「これは阿島式土器の中でも大変珍しい文様だ、今後慎重に扱うように」と言われ自分が手柄を立てた様ないい気分になりました。調査も大詰めを迎えた頃、全員が見守る中、腫れ物に触るように取り出したその土器は、残念ながら完全な一個体ではなかったものの、ほぼ形を成した（阿島式壺形土器）土器でした。まだまだ思い出はたくさんありますが以上とさせていただきます。

今回の発掘調査で貴重な体験をさせていただきましたこと喬木村教育委員会、ならびに今村団長、関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

4. 五反田遺跡発掘作業に参加させて戴いて

小沢義久

発掘調査と云う言葉は聞いては居たが、実際に携わってみて、こんなにも大事な仕事なのかと、始めて知りました。

今村先生を始め良い人達ばかりの中で親切に御指導を頂き乍ら、遺物の破片の扱い方、見分け方、時代の説明を加えて頂いて、初めてとはいえ本当に良い勉強になりました。

中でも阿島式土器は、全国でも有名であり、それに携われた事だけでも、満足出来ました。

普通なら、たかが破片と思っていた物が重要な遺物であり、その時代の生活が想像できた貴重な経験でした。

根気の要る作業で、発掘調査関係者の御苦勞が良く解りました。今村先生もお身体に気をつけられてこれからも一層頑張って戴きたいと願って居ます。

5. 五反田遺跡発掘に参加して

池田一夫

私は、よく遺跡の発掘現場に材料の納入や遺物の運搬等、出入させてもらっていましたが、実際に発掘作業に参加させてもらい、其のむずかしさに困惑してしまいました。

先ず、発掘するにあたり、土の色の見極めです。ジョレンを引いていて堅に落ち込んだ穴の土、溝状に続く土、耕土下の鉄分を含んだ土、砂の混じった土、住居跡の床土、炭の混じった土、これらは全て、色で見分けるわけですが、見極めがむずかしく、掘りすぎたり、掘り足りなかったり、毎日が失敗の連続でした。次に出土した遺物です。竹釘で印をつけ残していくわけですが、次に通るとき、足にひっかけたり散々でした。毎日が反省ばかりで一日が終わる頃には、肉体疲労より気疲れで、グッタリでした。それでも、A地区から出土した壺棺を見学し、どのようにして、お骨を納めたのだろうか、と当時の葬式に思いを巡らせたり、楽しいこともあります。楽しいことと云えば、調査員の方作業員の方々、良い人達で皆、友達になれたこと、今後も機会があれば、是非、一緒に参加させてもらいたいと思っております。

6. 繊細な作業

湯沢 俊夫

4月より始まった五反田遺跡発掘調査。作業を開始する前に一通り、団長の今村先生より発掘作業に使用する道具（鋤籠、アメリカンスコップ、ハケ、竹べら、移植ゴテ、竹クギ等）の使い方、一日の作業の進め方の説明を受けて発掘に取りかかりました。発掘作業をしている所は見たりしていてそんなに大変な作業ではないと思っていましたが、いざ自分でやってみると繊細で地味で根気のいる作業でした。そんな中、任された場所（グリッド）で阿島式土器が出土すると大変感激しました。

私が主に担当した場所はB地区でした。平安時代・古墳時代・弥生時代中期の住居址か土坑群が重なって出て來た。その下には2500年前の焼土、炭などがあり阿島式土器片が多く出土し、興奮しました。

今村先生には、五反田便りを7号まで発行して頂き、又、遺跡について色々と教えてもらい大変勉強になりました、感謝しています。ありがとうございました。

7. 水洗いについて

今村 健栄

此の度の五反田遺跡の調査では大変お世話になりました。私は現場ではなく遺物の洗いの方で少しですが、お仲間にしていただきました。今まで中央道、上郷、下條、浪合それに恒河、また喬木村では伊久間原の遺物の洗いを手伝って來ました。浪合では小さい石獣などがあつたり恒河ではほんとに珍しい物がたくさんありました。此の度の五反田は今までの遺跡に比べるとほんの一部分ほどの面積の所でしたが時期と種類が多くて楽しみでした。朱ぬりの遺物を洗い乍ら恒河の時アルバイト学生がきれいに洗いすぎて朱の一部が取れて失敗したことを思い出しました。刻書の様にもみられる品もありもっと広く調査が出来たら大変な遺跡として認められることになるのではと思いました。特に暑かった今年は現場は大変だったと思いましたが、何の事故もなく終えることが出来ありがたかったです。

報告書抄録

ふりがな	あじまごたんだいせき						
書名	阿島五反田遺跡						
副書名	五反田地区村道開設に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書						
編著者名	長野県下伊那郡喬木村教育委員会						
所在地	〒395-1107 長野県下伊那郡喬木村6664 TEL.0265-33-2001						
発行年月日	西暦2011年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 。	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
あじまごたんだ 阿島五反田	長野県 下伊那郡 喬木村阿島	2654	4996	。	2010.5.10 ～ 2010.7.30	280	
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
阿島五反田	集落	弥生時代	弥生時代中期溝状遺構	3	弥生時代中期土器片 多数	弥生時代中期 の溝に土器集中地がある	
		古墳時代	弥生時代中期竪穴跡	2	弥生時代後期土器		
		平安時代	弥生時代後期墓址	1	2	弥生時代後期 の合わせ土器棺出土	
		中世	古墳時代住居跡	2軒	同 土器片	10	
	近世	古墳時代溝状遺構	2	古墳時代土器片	100	平成23年 近隣の調査予定	
		平安時代住居跡	1軒	平安時代土器・土器 片	50		
		平安時代配石遺構	1	中世陶器片	10		
		近世 旧井筋跡	1				

阿島五反田遺跡

2011年3月発行

編集・発行 長野県下伊那郡喬木村6664
長野県下伊那郡喬木村教育委員会
印 刷 龍共印刷株式会社
